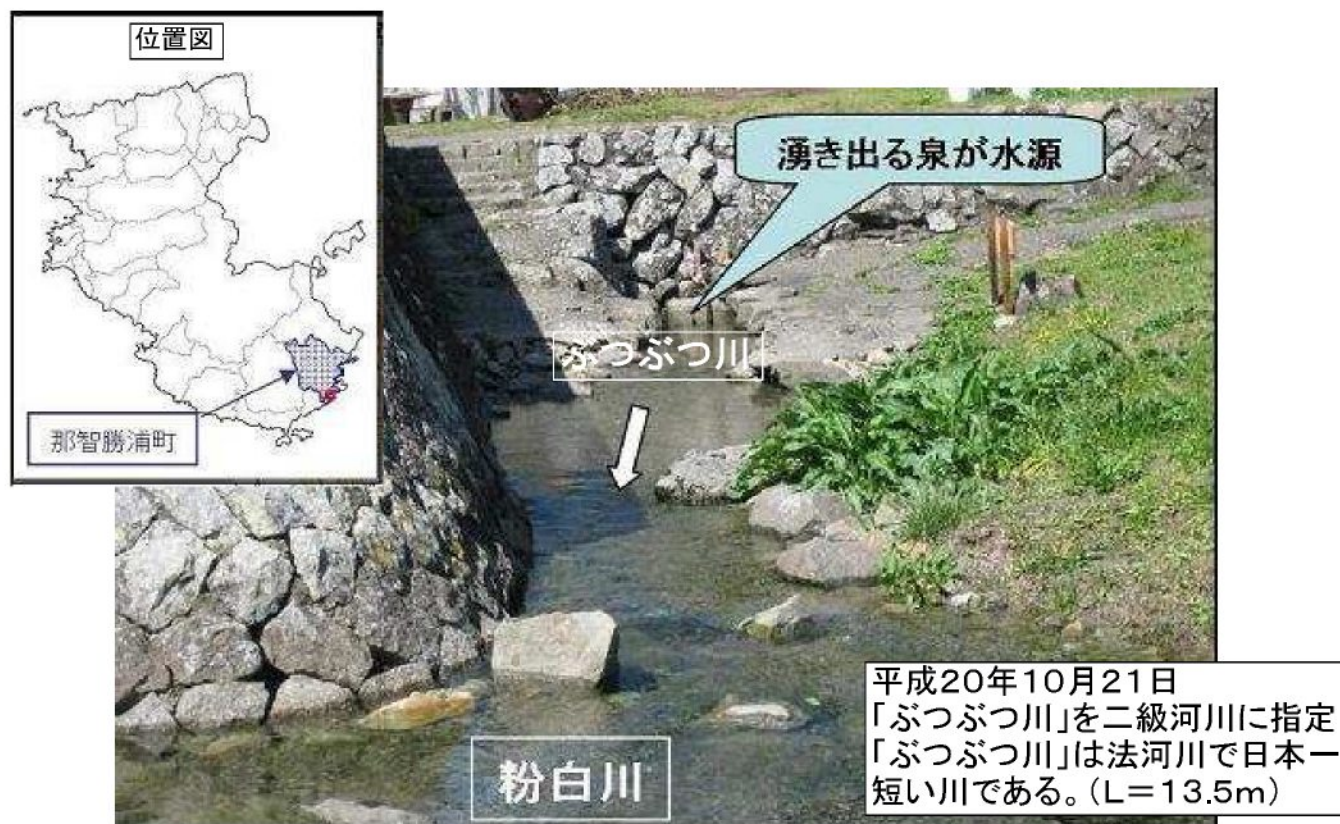


発表事例タイトル: 河川環境の保全を目的とした二級河川の指定について							
河川名	粉白川	水系	ぶつぶつ	川	二	級	
地形・地質	地質: 礫岩で構成						
所在地	地先名: 那智勝浦町粉白					13.5m	左右岸
セグメント	河床勾配	流速	粗度係数	現況流下能力(流量・確率年)			
周辺の土地利用状況	地元住民はぶつぶつ川の湧き水を飲み水として利用					計画高水流量(流量・確率年)	



【事例概要】

〈多自然川づくりの目標及び設定理由〉

飲み水として利用され地元で親しまれてきたぶつぶつ川の河川環境を維持・保全するためには、粉白川と一体的に県で管理すべきとして平成20年10月21日に二級河川に指定を行った。地元住民と那智勝浦町がぶつぶつ川の整備や保全についての協定を結んでおり、元来地域住民によって守られてきた自然を将来的に継承していくために、県、町、地元が協働して環境保全に努めていくことを目標とする。

〈各種課題等〉

河川の除草や護岸修繕の一部を地元住民と協働で実施するにあたり、希少種の生育箇所の把握を十分に行う。また、定期的な監視、観察を行い環境保全への意識向上を図る。

〈沿川住民の川づくりに対する要望〉

地元住民の憩いの場として、良好な自然環境を保全し、地域活性のきっかけとするため、県、町、地元が一体となった河川環境の維持と保全の要望がある。

〈事前調査結果〉

ぶつぶつ川の周辺には290種類を超える植物が自生している。

機関名 和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 河川課

テーマ分類Ⅰ	④各機関で実施した代表事例
テーマ分類Ⅱ	④市民との連携・合意形成に配慮した事例 ⑥地域の暮らしや歴史・文化との結びつきに配慮した事例

ぶつぶつ川の整備内容

整備状況

〈実施内容〉
 学識経験者の指導のもと、地元住民、県、那智勝浦町が協働して以下の河川整備を行った。
 ・石組 約10m、既設コンクリート張取壊し【左岸】
 ・平石積み【右岸】
 ・草刈り、ゴミ拾い【河川周辺】

〈施工後の現状〉
 ぶつぶつ川周辺には290種類を超える植物が自生している。河川整備内容は、多様な希少植物や周辺環境の維持管理を主体とした取り組みなため、今後とも適正な維持管理方法で河川環境の保全を図る。

〈自己評価〉
 今後継続的に県、町、地元が協働した環境保全に努めていくために、観光客等の訪問者と一体となってぶつぶつ川の環境に関する意識の向上を図ることが重要である。

〈今後の改善方策(案)〉
 多様な河川環境の保全を継続的に実施していくために、定期的な監視、観測に努める。また、取り組みについてのとりまとめや報告会を開催して、環境保全における活動等を将来に継承していくことが必要である。

河川環境の保全を目的とした 2級河川の指定について

和歌山県 県土整備部 河川課
技師 中井彰一

ぶつぶつ川の概要

- ・「ぶつぶつ川」は全長13.5mの那智勝浦町粉白地区を流れる二級河川粉白川の支川である。
- ・湧き水は昔から飲み水をはじめ野菜や洗濯物を洗ったりと生活に利用され、地域の方々からその川底から沸々と湧き出てくる様子から、「ぶつぶつ川」と呼ばれ親しまれてきた。

位置図



ぶつぶつ川の2級河川の指定について

◎二級河川指定内規◎

- ①大規模な宅地等の開発又は水資源開発等で二級河川として管理が生じた河川
- ②現行の県管理河川を管理する上で二級河川として管理する必要が生じた河川
- ③都市小河川改修事業を行うこととなる河川
- ④河川管理者において、特に必要があると認めた河川



- ・水源が湧き水で日本一短い川として親しまれている。
- ・日本一短い川として全国的にPRし、地域活性を図る。
- ・地元住民のうるおいのある水辺空間があり、飲み水としても利用されている。
- ・地元で親しまれてきた河川環境を維持・保全するためには、粉白川と一体的に県で管理することが望ましい。



平成20年10月21日に二級河川に指定し、日本一短い二級河川となる。

地元と協働した手作りの河川整備

地元住民の憩いの場として、自然環境を保全し、地域活性のきっかけとするため、県・町・地元が協働して河川整備を行う。

◎日時◎

・平成21年5月31日(日)9:00～

◎参加者◎

- ・地元住民 約10名
- ・那智勝浦町 5名
- ・和歌山県 9名
- ・京都大学フィールド科学教育研究センター
紀伊大島実験所長

◎整備内容◎

- ・石組み 約10m 【左岸】
- ・既設コンクリート張取り壊し、平石積み 【右岸】
- ・草刈り、ゴミ拾い 【河川周辺】

石積み作業



草刈り作業



整備内容について



今後の取り組み

- ・多様な河川環境の保全を継続的に実施していくため、定期的な監視・観測に努める。
- ・取り組みについてのとりまとめや報告会を開催し、活動を将来に継承していく。
- ・観光客等の訪問者と一体となってぶつぶつ川の環境に対する意識向上を図る。

整備前



整備後



河川環境の保全を目的とした2級河川の指定について

那智勝浦町について

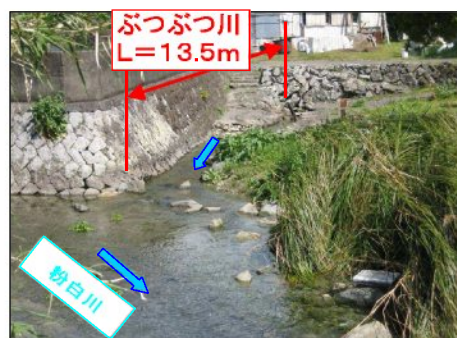
那智勝浦町は那智町、勝浦町、宇久井村、色川村の4ヶ町村が合併し、昭和30年4月に誕生した。その後昭和35年1月に下里町、太田村が加わり現在の姿になっている。

那智勝浦町の日本一

- ・那智の滝(133m)
- ・富士山が見える最遠の地(322.6km)
- ・日本一短い川「ぶつぶつ川」(13.5m)
- ・世界測地系における基準原点「下里水路観測所」(日本に一つ)



位置図



ぶつぶつ川の概要

- ・「ぶつぶつ川」は全長13.5mの那智勝浦町粉白地区を流れる二級河川粉白川の支川である。
- ・湧き水は昔から飲み水をはじめ野菜や洗濯物を洗ったりと生活に利用され、地域の方々からその川底から沸々と湧き出てくる様子から、「ぶつぶつ川」と呼ばれ親しまれてきた。



ぶつぶつ川の自然環境

- ・290種類を超える植物が自生している。

河川環境の保全を目的とした2級河川の指定について

2級河川の指定について

◎二級河川指定内規◎

- ①大規模な宅地等の開発又は水資源開発等で二級河川として管理が生じた河川
- ②現行の県管理河川を管理する上で二級河川として管理する必要が生じた河川
- ③都市小河川改修事業を行うこととなる河川
- ④河川管理者において、特に必要があると認めた河川

- ・水源が湧き水で日本一短い川として親しまれている。
- ・日本一短い川として全国的にPRし、地域活性を図る。
- ・地元住民のうるおいのある水辺空間があり、飲み水としても利用されている。
- ・地元で親しまれてきた河川環境を維持・保全するためには、粉白川と一体的に県で管理することが望ましい。

平成20年10月21日に二級河川に指定し、日本一短い二級河川となる。

2級河川指定における報道実績について

テレビ

サンデーモーニング、ちちんぷいぷい等

ラジオ

和歌山放送等

新聞

読売新聞、朝日新聞、紀南新聞、南紀州新聞等

2級河川指定式典の開催について

日時:平成20年10月21日(火)11:00~
場所:東牟婁郡那智勝浦町粉白 ぶつぶつ川
参加者:約120名

地元園児の笹舟流し



獅子舞の奉納

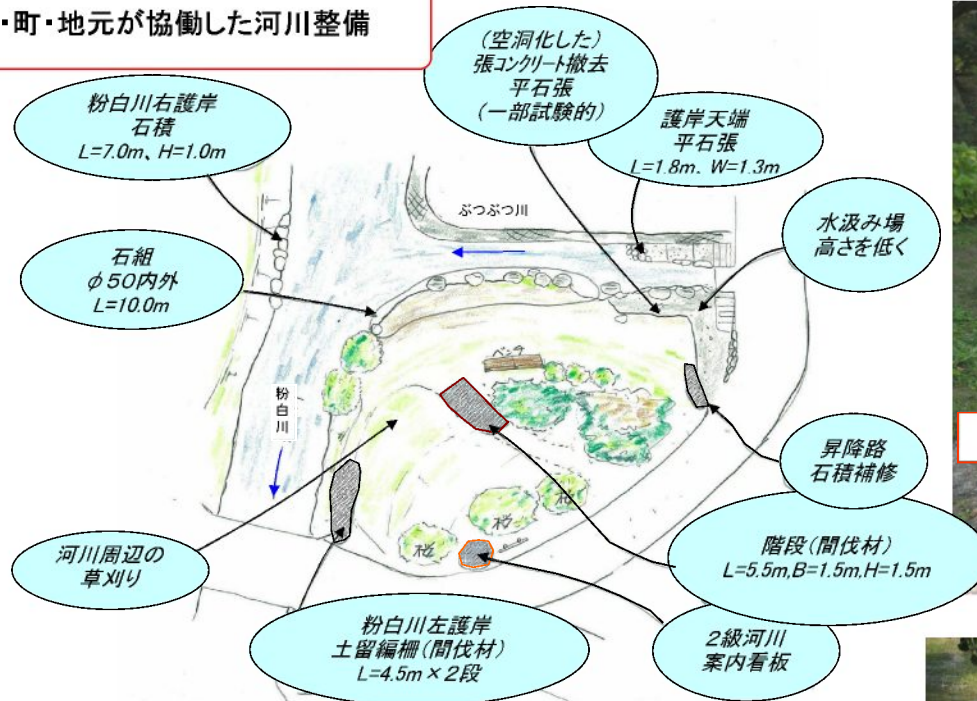


式典状況



河川環境の保全を目的とした2級河川の指定について

県・町・地元が協働した河川整備



地元住民の憩いの場として、自然環境を保全し、地域活性のきっかけとするため、県・町・地元が協働して河川整備を行う。

日時：平成21年5月31日(日)9:00～

参加者：・地元住民 約10名

・那智勝浦町 5名

・和歌山県 9名

・京都大学フィールド科学教育研究センター
紀伊大島実験所長

整備内容：・石組み 約10m、既設コンクリート張取り壊し【左岸】

・平石積み【右岸】

・草刈り、ゴミ拾い【河川周辺】

【県事業】：2級河川案内看板設置、護岸の修繕



地元ボランティアの手作り看板



草刈り作業



石組み作業

河川環境の保全を目的とした2級河川の指定について

今後の取り組み

- ・多様な河川環境の保全を継続的に実施していくため、定期的な監視・観測に努める。
- ・取り組みについてのとりまとめや報告会を開催し、活動を将来に継承していく。
- ・観光客等の訪問者と一体となってぶつぶつ川の環境に対する意識向上を図る。



日本一短い河川・日本一長い2級河川

位置図



最短河川順位(法河川)

都道府県	河川名	延長(m)
和歌山県	ぶつぶつ川	13.5
北海道	ホンベツ川	30.0
富山県	神通川水系忠六谷川	30.0
高知県	仁淀川水系3支西畑川	30.0
大分県	大野川水系飯干川	30.0

最長河川順位(2級河川)

都道府県	河川名	延長(m)
和歌山県	日高川	114745.0
山口県	錦川	110280.0
宮崎県	耳川	94800.0
北海道	阿寒川	94000.0
兵庫県	市川	77554.0

(和歌山県調べ)